

Japanese Cultural Center of Hawai'i

ORAL HISTORY INTERVIEW
with
Reverend Kenjyo Ohara (KO)

November 18, 1993

At the Residence of Reverend and Mrs. Kenjyo Ohara

By Reverend Yoshiaki Fujitani (YF)

(JCCH note: The original transcript was written mostly in Japanese rōmaji with some English, and we converted the rōmaji to Japanese characters (kanji, hiragana, and katakana) here. Brackets [] were added by the second transcriber for clarification.)

YF: The interviewer is Yoshiaki Fujitani; the date is November 18, 1993. We are at the home of Reverend Kenjyo Ohara and Mrs. Ohara, and we are going to ask 大先生 about his recollections of his life, of his work. He was the last minister in this Hongwanji to have arrived in Hawaii before World War II, and he has many very interesting recollections of the past, including his stay in the detention camp during World War II. So, let me introduce Reverend Ohara.

大原先生、どうぞお話しして下さい。最初は、まず、先生の個人の、informationで、日本の出身地や、みんな。

KO: まあ、私は 1916、大正5年に11月26日に、島根県邑智郡[Ochi-gun]田所村 [Tadokoro-mura]という、まあ、大変、中国山落の真ん中ぐらいで、寒村に在軒の、四男として生まれました。私の父は、大原三太といい、母は、ナミという名前です。まあ、百姓でありますから、別に変わった生活もないわけなんですけど、でも、母親が、母親の姉が寺に嫁いでおりまして、そういう関係で、私の、ついで上の兄と、それから、私が、お寺に入りまして、僧侶となったわけがあります。小さい時から、まあ、そういう将来は、僧侶になることで、寺の生活をしたわけなんですけど、学校は、やはり、田舎の中学を出まして、そして、まあ、金も余計ないんで、速成の、中央仏教学院に行きまして、そこで、まあ、仏教の勉強をさしてもらって、そして、得度し、僧侶となったわけがあります。で、私の、ついで上の兄も、これは、賢了[Kenryo]という名前ですが、大原賢了という名前ですが、この兄も、やはり、仏教学院を出て、布教研究所から、そこで、まあ、布教を研究して、台湾の開教に行きまして、丁度、日支事変がありました頃で、兄は、

南洋方面に召集されて行きまして、そこで、マラリアに罹りましてですね、昔のことですから、マラリアというのは、大変な大病であって、そして、帰ってきてから、療治しておりましたが、とうとう、亡くなったわけなんです。それで、私も、台湾に一寸一年ばかり、ハワイにくる直前に、おりまして、丁度、その時の、総長は、口羽[Kuchiba]義教[Gikyo]でした。この総長は、やはり、島根県の近くのお寺でありまして、私と兄は、良くご存知だったんですね。それで、大体、兄が、口羽総長に呼ばれて、ハワイの開教師に来るよにとということだったんですね。ところが、それに、亡くなったんもんですから、それじゃ、弟のあんたが、ハワイの開教師に来いと、こういうことで、まあ、口羽総長の推薦に、ハワイの開教師として、来るようになったわけなんです。

YF: 先生、一寸、すみません。あの開教師の時代に入る前に、日本で育てられて、子供として、どのような、まあ、小学校の教育や、どのような **games** や、まあ、あの頃の、思い出話はございますか？

KO: うん、小学校？ 小学校は田舎の小学校でね、そう別に変わったこともないです。尋常は、小学6年ですか、**6th grade**、そして、こんど、中学に入ってですね、中学というのが、こっちの高校ですよ。まあ、今は高校になっていますがね、あの頃は、中学とって、中学は、5年間あったわけなんです。それ、こっちの、**intermediate high school**と合わせて、まあ、**five years** ですから、丁度5年あって、だから、べつに、教育というのはですね、小学校の教育は、まあ、昔の、高等ですから。日本の教育は、まあ、厳しいですよ。いろんな、小学校でもね、あの頃は、軍事訓練なんか、やりよりましたね。中学なんかでもね、なんか、日支事変が、始まって、戦争の、世界大戦の直前ですからね、いろいろ。まあ、小学校では、そういう訓練はないけれどもね、国には忠行を尽くし、親には孝行。こういう忠孝で、そういうようなことが、やかましくて、あれが、昔の、日本の小学校の（（？））ですよ。まあ、私が寺に入った、小さいながら、小僧をやって、まあ、お経も習って、子供時代ですからね、お寺の、まあ、小僧をやったわけなんです。そういうように、親が仕向けたもんですから、私と私のついの兄がね、小学校の時代から、やはり、お寺のことは、良く知っておりました。

YF: それで、まあ、お父さんも、その百姓をやっておられたんですか？

KO: そう、そう、そう。

YF: それで、やはり、畑などで、手伝ったりしていました？

KO: ええ、畑や田んぼはね、手伝ったこともありますし、まあ、子供の時

ですから、遊び半分でね。ただ、その、母の姉が、寺におりましたから、その、まあ、小さい時から、その姉のところの、母の姉、叔母さんのところよ。お寺に行って、やんちゃをして、遊んだこともございましたがね。

YF: それで、まあ、大きくなって、学校へ行って、ハワイの開教師にならんかと、いうことで、、、

KO: そう、それで、あの今の、口羽総長がね、ハワイに兄貴が来るようになったのが、死んだもんだから、お前が来いと、こういうことですね。昔は、あの総長なんか、鶴の一声でね、なかなか、No とか言われないうですよ。ハイ、ハイ、言うて。それで、あの、こっちへ来る支度を、始めますよね、京都でね。あの頃、京都で、あの、飯田先生も、前、ハワイの開教師だった。Kona におられて、その人が、あの、日本に帰っておられてね、京都におられて、そこへ泊まって、いろんな、こっちへ来る手続きを始めたのがね。それで、はじめ、あの、神戸に、あの、アメリカの領事館があるんですよ。総領事館が神戸にね。そこに行って、あの、査証を取らねばいけんで、まあ、何べんも行ってですね、まあ、ようやく、査証が下りたわけなんです。それが、まあ、私が、いちばん最後ですよ。私の次は、もう、神戸では、査証しなくなって、その、アメリカに、来ようと思ったらね、あの大統領、アメリカの President の査証がなければ、来れん。まあ、それは、全体来れんということですよ。で、私がいちばん最後でした。私の次に、二、三人、開教師に来るのに、passport を貰いに行ったのに、なかなか査証してくれないで、とうとう、来れなかった。それで、私、最後ですよ。

YF: その理由は何か、まあ、領事館の方でも、日本とアメリカと、一寸、まずい、、、

KO: ええ、やっぱり、ええ、まずい筈がわかっておりますね。あの、領事館ではね。

YF: そうね。

KO: 日本におるんですからね。アメリカの領事は、大概わかっておりますよね。だから、もう、これは、戦争は始まるということはね、アメリカでは、もう、わかってたんだね。でも、その始まるということは、はっきりとわからんがね。

YF: そう、何時かという、、、

KO: 日本の海軍が Pearl Harbor を attack したがね。あれでも、わかつとつたら、準備しますよね。で、そういう意味ですよ。まあ、

私が、幸いか不幸か、あの時には、わからなかったが。いよいよ、旅券がおりたら、これは、危ないがと思ってね。まあ、私、最後でしたね。でも、旅券がおりたんですから、止めるわけにはいかないから、それで、まあ、皆が泣いてね、**family** の者でも、行くな行くなとって、お前は、アメリカに行って、死にに行くようなもんで、で、止めといて、でも、そういうようには、いけないと言ってね、それで、とうとう、あの4月の、日にちは忘れましたがね、八幡丸[Yawatamaru]いう、あの、船がありまして、、、

YF: 先生、御年は、どれだけだったんですか？

KO: 私が24ですよ。24。その前に、台湾におったんですよ。台湾の高尾にね。1年おったんです。それで、ハワイ、こっちへ来い言うので、直ぐ帰って来たんですよ、京都にね。口羽総長は、台湾におったんですよ、開教総長になる前にね、台湾の開教師だったんですよ。台湾開教本部の参事かなんかしておられた、口羽総長はね。そういう意味で台湾に行ったわけです。だから、もう、ずっと初めから、口羽総長（ (?) ）続いとるわけです。それで、帰ってきて、いま、こっちへ来る手続きをして、4月の中頃でしたかね、あの、八幡丸いう船で、まあ、その時にはね、アメリカの人が皆、引き揚げる、白人が、八幡丸いう船にはね、白人が沢山おって、で、日本人は、ただね、領事館の人とかね、そこでね、なんかね、アメリカの開教総長した 内田弘融[koyu]、あの人も、乗ってたんです、アメリカへ行く、で、あの、私は、まあ、開教師でね、だが、日本人は、僅かしか、いなかったんですよ。それでも、まあ、日本の船だからね、対応は良くしても、もう、殆どは、白人が、日本から引き揚げる、あのために、乗ってたんですよ。で、その船に乗って、8日間、あの頃は、8日間よね。8日間かかって、あのホノルルに着きましてね、で、まあ、未だ戦争気分は、こちらは、ないからね、だから、ホノルルというところは、大変良い所だなあと、思ってね。あの、**Aloha Tower**、あそこへ船で着いてから、小林ホテルに、2、3日泊まって、それで、こんど、別院に行って、別院の開教師になったわけなんですよね。まあ、ハワイへ来たたら、暑いから、眠むたい、眠むたい、**office** で、いつも、昼寝するんだ。

YF: あれは、ハワイぼけか、なにか、、、

KO: ハワイぼけ？ ほんに、ハワイへ来た時は、眠むたいですよ、その時。あの、家内は、何時帰ったかな？

Mrs. Ohara: 私は、6月。

KO: Huh, 9月？

Mrs. Ohara: 6月。

KO: Oh, 6月に、帰った? Oh, ほとんど、最後の船よね。

YF: それでは、奥さんは、その頃、ご存知だったの?

KO: これは、京都の女専。

Mrs. Ohara: いいえ、ちっとも知らなかったの。

KO: 女子大学。

YF: Oh, I see.

KO: 今は、京都女性大学。前は、女専、女子専門学校。

YF: そう、そう、そう。

KO: で、本山の、でも、あの頃は、全然関係ない。こっち来てから、知ったんで。それで、まあ、4月に来て、別院に駐在しておりましたね、ハワイ別院に、で、あの頃は。まあ、殆ど、今、もう、開教師は、みな、亡くなったですよ、開教師は。

YF: そう。それで、主に、どのような、お仕事をやっておられたの?

KO: ハワイ別院で?

YF: うん。

KO: ハワイ別院では、まだ来たばかりだからね、何にも、、、あの頃はね、日本と同じように、月忌 [gakki] というものがある、別院で、毎月、あの、お参りに行くんですよ、命日に、この member の、だから、、、

YF: House のほうへ?

KO: House に参る。だから、一日にね、2, 3軒位、1人の開教師がね。大盛り新米、やり重ねで。その頃は、あの、なによ、car も使えんからね、皆、歩いて、あの、近くよね。それから、some、あの、迎えにきよったね。月忌というのが、あったんですよ。まあ、その、日本と、あまり変らないね、ハワイの開教師といっても。昔の一世だから、あの、熱心な人が、多かったわけです。自分の親の命日を、毎月つとめるとかね、亡くなった wife とか、husband ね、あの命日を、

毎月する、それに、お参りする、家で。そういう時代で、あったの。

YF: そして、おつとめは、どういうお経を読んでいたんです？

KO: あの頃？ さっき？

YF: はい。

KO: それは、あの、Genmon[?]ですよ。

YF: ああ、そう。

KO: 光顔魏魏[kogengigi]、Genmon。それで、ちょっと、あの、ちょっと、一口お話してね。それで、まあ、、、

YF: だが、やはり、ああいうように、しょっちゅう、お会いする機会があったら、members と、その、密接な関係をつくるようになるでしょうよね？

KO: だから、非常に、昔はね、熱心で盛んであったということはね、そういうことでも、わかるよね。

YF: そう、今は、別院では、ああいう機会がないからね。

KO: 今はもう別院でもない、普通の寺でもよね。それから、あの、来てから、直ぐね、まあ、口羽総長が、お前、あの、英語せねばいかん、と言ってそして、お前は、それがね、来る前、ハワイに来る前に、ハワイの開教師として来るのだったら、ハワイに骨を埋めるつもりで来い。絶対に、ハワイ来てから、辞めて帰ったらいけない。そういうこと、あの、誓うんだったら来いと言って。その頃は、皆、そうですよ、私だけじゃないんですよ。で、日本に帰るんだったら、あの、来んでもいい、そういうことだったんですね。それで、あの、お前は、英語勉強せい言うてね。今でもあるか知らないが、あの、Hawaiian Mission というのが、あったんですよ。Jodo [浄土] Mission の近くに。Jodo Mission、Hawaii Jodo Mission があるでしょ？ あの、つい前に、Hawaiian Mission があって、そこは、みんな、そういう、日本から来た、あの、まあ、帰米二世とかね、あの、小まい時に、日本へ行って、それで、日本の教育して帰ってくるのが、沢山おった、帰米二世。

YF: そう、そう。

KO: あれは、ああいう人が、おもに、行っとたんですよ、Hawaiian Mission と

いうのは、英語の勉強ね。

YF: 誰が、経営しとったの？

KO: あれは、誰だったかね？

YF: Hawaiian Mission、、、

KO: 誰か知りません。

YF: とにかく、キリスト教の団体ですよ？

KO: はあ、キリスト教か、しれないね。Hawaiian Mission, maybe キリスト教所。そこで、あの、午前中ね、three hours、三時間位、行きよったんですよ、そこに。ところが、あんた、行ってみればね、勉強するんじゃない、なんか、歌をうたったり、だけで、遊んでばかり。帰米二世の人がね、これは勉強するんじゃないんだ。あの、昔、一生懸命に勉強しとけばよかった。それで、遊んどるみたいに。それから、12時頃、帰ってきてね、そして、昼飯食べねばいけない、また、office に行っ、あの、お寺のことをして、それは、ずっと、やったよね。ところが、今の、8月の末になってからね、Mountain View の日本語学校の沢井という校長がおって、その、東本願寺の開教師でね、その人が、日本に帰るんで、それで、その後へ、あの、行くようにという、口羽総長の命令で、いま言った、鶴の一声で、お前は、あの Mountain View の日本学校の校長、Olaa Hongwanji の、次席開教師に行けとちゅうて、行ったわけよ。そして、その、あそこへ行ってからね、あの、あの頃ね、Mountain View の日本語学校にね、200人位おったの、生徒が。その、Mountain View の公立学校が、ここに、あるでしょ、きび畑ですね。その間に、gym があるの、大きな gym。その次に、日本学校がある。で、200人おって、先生4人おったんですがね、私は、若いけれど、校長でその、日本学校のね、バラックや、昔のバラック建ての、あの校舎がね。その後ろに、あの、small 部屋があるですよ、room が。あの、もう、ほんの、木を、掘って立て小屋みたいのが。そこへ泊まって、そして、こんど、あの、日本学校の校長でね。あの、あとの3人の先生はね、1人は、男の先生、あとの二人は、女の先生、そして、その男の先生がね、Hilo にあの、料亭やとるの、そのお母さんが、Hilo に、あの、ダブ[?] いうところがある、あの、池がある、大きな、池いうても、あの、海の水があつてね、あの、いまの、ずっと向うの海岸のほう、そこに、あの料亭があるんですよ。あの、昔の、料理屋いったら、たいしたもんやね。ちゃんと三味線ひいてね、芸者みたいに。その先生のお母さんが、ま、芸者みたくいで、その、三味線ひいてね、owner ですよ、その料亭の。そして、その男の先生は、そこから、通うんじゃないがね、先生は、あの、自炊餐が

、えらいだろう、家に食べに行きましょうや。それで、その先生がね、泉本[izumoto] と言うんですよね。その、若い先生が、それが、わしを、いつも連れて、あそこへ、夕飯食べに行きよったんですよ。それで、あの、そういうことも、あったんですよね。そして、あの、生徒はね、公立学校から、その間に、gym があって、gym の次からね、その gym へね、行って、遊んでね、なかなか、日本学校に来んのよ。それだからね、gym の前に行って、門番、あそこに行って、番をしとるん、あそこに、入らせんように。校長か何かわからんね。それで、まあ、校長の責任。それから、そこで、番をしとってね、あそこへ、遊びに行かんように。そしたら、あそこで、遊んだらいかんと思って、学校へ行け。その gym のまわりで、番をして、そうして、なかなか、あそこで、遊んでこんから、いつも休むでしょ？ それから、あそこへ、立っというて、門番よ。昔はね、なかなか、日本語へ来るといってもね、勉強せんでしょ？

YF: それで、日本語学校が終わってから、gym などへ行く、、、？

KO: いや、日本語学校が終わってから、こんど、あの、、、Oh, gym ですか？

YF: うん。

KO: Gym は、その、終わってからは、all right ですね。でも、日本語へ来る、その公立語が済んで、二時に直ぐでしょ？ 済んだ、こんど、日本語へ来る、gym の前通るから、日本学校には来ないで、gym へ行って遊ぶ、で、日本学校へ来ないわけですよ。でも、親はね、知らんからね、日本学校へ来てる思って。日本学校へ来んで、あそこへ行って、遊んどる。それだから、あの gym の前に、私が立って、あそこへ行かせんように、あの、入らせんように。

YF: それで、その日本学校が終わってから、子供等も gym へ行って遊んだんじゃないですか？

KO: Yeah、終わってから遊ぶのは、いいですがね。でも、まあ、あの親が迎えに来たりするから、でも、あの、学校の前にあるから、いけんの。

YF: それで、その時代は、先生、ただ、学校の校長先生、、、？

KO: No, no. 学校の校長はして、あの、済んだらね、午前中は、やっぱり、Olaa の Hongwanji へ行って、午後、学校が始まる前に、二時前に、あの Mountain View へ行って。こんど、終わったら、また、あの Olaa のお寺に。あの、gym が、あったね。あの頃は、出張説教というのが、沢山あったの。沢山の、あの、camp が、あるでしょ。あんたは、知っているかしらん、camp があってね。

YF: そう、そう。

KO: あの Papaikou でも、12ぐらいあった、camp が、きび畑の中へ、12。で、((?)) 12、あの、布教 ((?))。それから、12晩、いうことでね、Twelve nights、あの、camp 説教。あの頃は、えらかったですよ。12箇所いうかね。それから、学校が終わったら、あの Olaa の、お寺に帰って行ってね、そして、あの、home を勤める。

YF: その頃、その、車は持っておった？

KO: ええ、車は、あの頃、もう。あの Olaa に行ってからね、行ってから、直ぐ、あの、license とったわけです。あの頃、license とるには、わけはない。

YF: Yeah、そう、そう。

KO: 何にも知らね。あそこにね、田中という、大きなね、あの、道路監督か、あの頃、道路監督、あの、county の、Hawaii County の、city county の foreman ですよ、道をつくる。あれは、威張ったもんですよ。それが、Olaa Hongwanji の genjisho[?] だったの、大きな田中次男[Tsugio]とって。そしてね、license とるにもね、まあ、この drive できたら、いいのよね。まあ、drive して、田中さん乗せて、後ろに乗せて、それから、policeman が横に乗って、田中さんが後ろに乗って、そして、一遍、丁度、お寺から、あそこの、あの license とる所まで、あそこに、drive したの。そしたら、Okay と言って、田中さんが、とってくれたんですよ。それで、まあ、license とってね、で、車を持っとんたんですよ。あの頃は、古い車よね、1941 じゃからね。Chevrolet の、だいぶん古い車だったの。それで、あれを、もって、あの、Mountain View から、その、戸田いう開教師だったの、あれが、主任開教師で。それで、12月の8日ですか、World War II が始まったのは、第二世界大戦が。

YF: Uh, 7th。

KO: Seventh? Seven がね、丁度、Sunday だったの。

YF: そう、そう、そう。

KO: あの始まった、、、あれは、晩でしょ？ 夜、始まったんですか？

YF: No、朝。

- KO: 朝? Yeah、朝。Sunday だったの。その、Sunday に、あの、Pahoa の、Pahoa いうところが、あるの。あそこの、branch よね、Olaa の。あそこの、婦人会の報恩講があったの。そこへ、行っと思ったの。そこへ、行っと思って、帰ってね、あの、帰って、戦争が始まったんだだけ。
- YF: まあ、Pearl Harbor の襲撃は、朝の7時に何ぼだったね。
- KO: はやかっただね。それだから、もう、大分たってから、12時頃、帰ってから、初めて、聞いたんですよ。それまで、知らなかったんですよ。
- YF: その日、どういう思い出がありますか?
- KO: その日はね、もう、帰ってから、戦争が始まったというのでね、まあ、大変なことになったという、それで、あの、そのあくる日にね、parlor におったら、戸田先生と話しよったらね、FBI が来たのよ。戸田先生を引っ張りに来たのよ、戸田主任開教師をね。それで、あの、引っ張りに来てからね、お前は誰かといって、FBI の人とね。それから、soldier がね、ちゃんと、あの、剣付鉄砲を持って。
- YF: Uuh, uuh, bayonet はね。
- KO: 大概聞くもんですから、ううん、わしは、あの、ここの開教師じゃ。そしたら、外で、この手帳に、何か書きよったよね。
- YF: その時、先生の record が、全然、なかったんですよ。
- KO: もう、4月に来たんでしょ? それから、それで、record がないんですよ。
- YF: 青木先生も、なかったでしょ?
- KO: Huh?
- YF: 青木先生も。
- KO: あれも、なかったの。あれは、Canada から来たんですよ。
- YF: そう、そう、そう。
- KO: それで、戸田先生は、もう、black list に載ったからね。あれを、引っ張りに来たんですよ、Next day。その時に、あの、つけて帰って、

そして、わしの名前が載ったわけよ。それで、あの、1月に来たん、1月に、やっぱり。それで、なかなか、引っ張りに来んの、と、思っておったよね。それから、あの、**suitcase** なんか、みんな用意しとったよ、なかなか来んのう、と。こっちは、もう、1人者じゃあるしね、おもしろいの、どうせ、こっちに、おるより、引っ張られたほうが、いいと思ひ。あの頃は、お寺の後ろね、**Olaa** の **Hongwanji** の後ろの方ではね、**Filipino** の人がね、こう、**knife** を突き出して、恐ろしいですよ、脅かすようなもんで、これは、こっちにおるよりか、引っ張られたほうが、いいと思つてね。でも、なかなか、来なかったよね。やっぱり手続きをするんでね。で、1月に引っ張りに来て、私は、あの、夜ですよ、夜9時頃来たの、引っ張りに。そして、引っ張ってからね、あの、**car** の中に連れてに、まあ、あの **soldier** が前に二人乗っててね、そして、後ろへ。そして、**Hilo** のほうに連れていくのよ。本当は、あの **volcano**、**Volcano camp** というのがね、バラック建ての、あそこに、**Army** がおったんですよ。で、**Hilo** のほうに連れて行くよのね。何処へ連れて行くかなと思ひよったら、**Hilo** の、あの、火葬所の方に連れて行くんよ、焼き場の方に。これは、えらい早よう焼いてしまうんかの、と。そして、その焼き場の、火葬所の直ぐ下にね、あの、あそこは、**Hala** [?]というところよ、**Hala** いうところがあるん。あそこに、丸谷 [Marutani] Matsuo [松男?] さんが、あそこに、**house** があつたんですよ。あれを、引っ張りにいったんですよ、**Hilo Hongwanji** の院長だったんです。**Hilo** 別院の院長、丸谷 Matsuo。まあ、あの丸谷、、、

YF: Arthur の？

KO: Arthur のお父さん。あれ、引っ張りに行くのよ。あれ、引っ張りに行くのに、あそこに、行ってね、そして、**car** の中に、見たら、丸谷が引っ張られている。私を連れてね、そして、**Volcano** へ連れて行ったん。**Volcano** へ行ってみると、沢山おる、あそこにね、引っ張られて。だいぶん、おったですよ。60何人か、おったですよ、その **camp** に、その **バラック** に、大きな **バラック** の中へね。なかなかね、**バラック** の中に入ってもね、一日に二時間位しか、外に出さない。みな、**バラック** に閉じ込めて、外に出さんのよ。で、私だけね、引っ張っていつてから、こんど、あの、**Hilo** に連れて行くのよ、毎日。**Hilo** の、あの、郵便局の **upstairs** にね、あの **FBI** の **office** があるんで、大きな **office** が、あの郵便局の二階に。そこへ、連れて行って、そして、あの、お前は **spy** であろうと、**spy** 嫌疑にかけられたのよ。それだから、殆どね、一寸、**nikaijika** (?) ぐらい行つたですよ、毎日、剣付鉄砲 ((?)) 乗っかってね、あそこへ行ってね、毎日同じように、お前は **spy** であろうと言ってね、**No, No**、と言って。

YF: Yes 言ったら、どうだったかな？

KO: Yes 言ったら (laughter)。で、日本ではね、アメリカのキリスト教の牧師はね、日本語なんか、知らなかったでしょ。あれ、皆、spy ですよ。Spy を兼ねといて、あの、キリスト教の牧師は。それから、仏教の開教師も、戦争が始まる年の前にね、4月に来たんだから、これは、spy に来たんじゃないかと、思ったんだろう、アメリカの、あのFBI がね。それだから、お前は、spy だろうと、No 言うても信用しない。

YF: 私の知っている、あの、Methodist の牧師がおったのよね。姫野[Himeno]というのが、ヒロ 姫野。だが、あの人も、帰米かな。とにかく、日本の海軍に入っとった。そして、それが終わって、ハワイへ来ておったわけよね。

KO: それは、spy じゃない？

YF: I don't know, but ... 戦争が始まってね、あれも、抑留所に入れられたよ。Santa Fe 行って。

KO: でも、私は、日本の開教師は、絶対に spy はしない。全然関係ないと言うてもね、向うは、信用しない。それだから、毎日、毎日ね、あの、引っ張っていくのよ。で、それから、通訳は、通訳がいてね、英語の通訳が。その通訳はね、日本人じゃがね、まあ、名前は haole だがね、あんた、あの、そうですと言いなさい、と言って、そしたら、毎日来んでもいい。そういうのも、そう言われたけどね、やっぱり、spy でないのは、ないんだからね。

YF: そう、そう。

KO: とうとう、その、続けてね、向う、疑いしないから、連れてこんようになつて。

YF: やはり、先生も、戦争直前に、こちらに来られてからね、そういうように、思われるでしょう。

KO: それで、開教師でも、もう最後だからね。で、これは、てっきり spy に来たんじゃないかと。Spy で来るんだったら、もっと上等の者に頼むよね。わしらみたいな、英語もできない、なにも、spy には、頼みはせんよね。まあ、そして、あの3ヶ月ぐらい、あそこにおつてね、あの、Kilauea Military Camp、それから、あの、あそこの、Honolulu の Sand Island で、Sand Island で、やっぱり、三ヶ月ぐらい、three months ぐらいおつて。

YF: どういう生活だった、Sand Island は？

KO: Sand Island でもね、まあ、Sand Island は、もう、どうも、普通よね、あの、prisoner と同じようによね。Island だからね、逃げられん。あそこに、もう、二世の leaders が、おりましたよ。あそこは、未だ、internment camp じゃないんだからね、Sand Island は、仮抑留所で。あそこには、今の、室田[Muroda]さんとかね、ああいうような人なんか、皆、Hongwanji の leader でしょ、日本学校の leader でしょ、ああいうようなのを、皆、引っ張ったんですよ、あの頃。二世でも、こっち生まれでも、ああいうのも、あそこに、入っていたんですよ。

YF: じゃあ、ああいう人は、結局、Honouliuli に、、、

KO: Yeah, Honouliuli に、Yeah, Honouliuli にね。Sand Island には、おらんかったかな。

YF: Sand Island にいて、あそこから、まあ、、、

KO: Honouliuli に行ったんでしょ。

YF: そう、そう。

KO: 特別な shuensho [?] よね。先生なんか、あの頃、やっぱり、知ってるわけ、その、Honouliuli なんかの？

YF: いいえ、知らない。

KO: 学校へ行っていたの？

YF: 私は、未だ、学生だったの。

KO: じゃ、あそこで、まあ、あそこにも、おったね。あそこに、いちばん最後にね。私ら、mainland に送られる直前にね、あの、酒巻[Sakamaki] 中尉 [正しくは少尉] がおったでしょ？

YF: ああ、そう、そう。

KO: あの潜航艇で、あの真珠湾に舞い込んで、asosen [?] のように真珠湾に、それで、捕まったでしょ。人事不省になってよ、捕まって。それがね、来たの、あの、やっぱり、あその Sand Island に、それが、いちばん初めて、あの、日本の Navy の pilot が、あの、捕虜になったのが、PW になったのが、初めて。そして、それが、Sand Island において、そして、私らが、あの、輸送船でね、あの、アメリカの mainland に

送られる時に、その人が、一緒だったの、酒巻いう。それがね、同じ船ですよね、輸送船で、あのアメリカの **Navy** の。そして、その後ろで、潜水ですか、**submarine**、**submarine** が、二隻ついて、後ろ守ってきよった。それで、あの、酒巻中尉がね、自殺しよう思って、あの頃、行く時にね、輸送船、沢山、私ら、**internee** と乗せとったんで、それが、あの、**lunch** に、行く時にね、**lunch** でも、**dinner** に行く時にね、あの、

初めて、あの、上の **deck** に上がって、そして、食堂に行くのよね。それだけは、毎日、あの、お日さんを見て、そのほか、みんな（ (?) ）。その時に、あの、酒巻中尉が、あの、甲板から飛び込んだの海に、死のうと思って。でも、あの、浮き着けておるでしょ、なんちゅうか、この浮きを着たのが、、、

YF: Yeah、あの、**life vest** という、、、

KO: あれを着けているから、沈まない、沈めんから、後ろから、あの、**somebody** に救い上げられ、拾い上げられて、それで、とうとう、死なんのよ。まあ、それからというもののはね、**lunch** にも、行かせんようになつて、上へ、私らも。

YF: ああ、そう。

KO: 女でも、船のいちばん底。そして、あの酒巻中尉はね、あれが1人ね、あの、鉄の格子があつて、その中へ入っていたの。そして、もう、全然出されん、上にもあがらせん、そして、便所にも行かせんよ。それだから、バケツもってきて、私らが、みんな、バケツ持って、で、酒巻中尉のために。**Internee** も、そういうような、嚴重なめに、おつたの、あの船の中で。もう、ようやく、**San Francisco** に着いたのに、そして、あの、あそこ、なんと言うね、**Angel**、、、

YF: **Angel Island**...

KO: **Angel Island**. あそこは、あの、普通ね、千人小屋とって、千人小屋というのは、あそこは、あの、なにだったでしょ？ 日本から来る移民が、みんな、あそこに寄つて、**San Francisco** の **Angel Island**、あそこは、**jail** だったのよね、昔はね。あそこへ行ったの、**Angel Island**。あそこに、一ヶ月位おつて、あそこは、ひどいとこだよね。この **bed** にね、南京虫がいっぱいおつて、南京虫が咬むのはね、二とこ、咬むのよ、ここと、ここ、**two** 二とこ、いっぺんに咬むの、で、すぐわかる、南京虫と。はあ、ひどいですよ、あれは。あれに、負けんものは、いない。これが、膿んでからね、膿みが出るの。まあ、さすが、ひどいは。あれは、初めて、わしは、南京虫を、真っ赤に

なってね、まあ、私は、あまり、負けなかったけど、あそこに、one month おって、こんど、それから、汽車で、（ (?) ） Roseburg に。Roseburg で、、、

YF: ((?)) Lordsburgよね、、、

KO: Lordsburg?

YF: New Mexico.

KO: Lordsburgというのは、Texas、、、

YF: Oh, Texas?

KO: Texas じゃない、、、 Texas か?

YF: Lordsburg、、、

KO: Oh, Arizona, Arizona、、、 California のつぎ、California のつぎ、、、

YF: Arizona、、、

KO: Arizona ですか?

YF: Yeah, yeah.

KO: あそこの、Lordsburgというところ、砂漠の中ですよ。

YF: New Mexico じゃないかな?

KO: New Mexico の境。

YF: Oh, Okay.

KO: California かな?

YF: No, No.

KO: California のつぎの、New Mexico のほうの境。

YF: そう、そう、そう。

KO: Texas かな? あそこの、Lordsburg)にね、Lordsburg)に行く時に、あの、汽車でね、San Francisco から。そして、あの、汽車のなかでも、

皆、この囚人を運ぶ、**prisoners** を運ぶ、あの鉄の **koojikan** (?) から、
((?)) 外は、まあ、見えん。これを、上に上げたら、いけんの。
こう、見ようとしたら、上げて見るの。それから、、、

YF: やはり、捕虜だったですね。

KO: 捕虜ですよ、**prisoner of war**。だからね、あの、ちゃんと、あの、
jumper でもね、あの、**shirt** でも、くれる。でも、それはね、背中にね、
POW と書いてあるんで、、、

YF: POW?

KO: あれを、書かれているの、**jumber** のうしろに。それを、くれるん
のよね、もう、**shoes** から、全部、配給だからね、**Army** の。それで、
それを着て、ずっと ((?)) くれたよね。その時、あの、**Lordsburg**で、
Lordsburgから、砂漠を、降りるんでしょ。何にも、駅も、
station も、何もない。それをね、もう、夜よね、何処も見えんよ、
何処へ連れて行くんかの、と思って、皆、行列してね、あの、わし等が、
行った時は、百人位おったかな。それを、降りてから、**rail** から、
ずっと、**camp** まで、ちょっと、大分あったね。一時間位、歩いて、
それから、ずっと行列してね、**soldier** が、、、

YF: 荷物抱えて?

KO: 荷物背負ってね、あの、この **bag** があるでしょ、**Army** の、、、

YF: うん、そう、そう。**Duffel bag**、、、

KO: あれで、行く時に、あの、1人殺されたんじゃがな、**internee** が、
年寄りが、よう歩けんの。一時間も、あそこの砂漠歩くでしょ。で、
よう歩かんでね、とうとう、なんか、まあ、**Army** に燃えあげられてね、
そして、あれは、撃たれたんだ、**Army** から、撃たれたんだ、**soldier** が。
撃たれて、よう歩かんのは、無理ありませんと言ってね、とうとう、
撃たれたんで、それで、1人死んだの。まあ、その、いろんな裁判なん
かあったが、まあ、**internee** の **spokesman** がおるよね、それが、
だいぶん、掛け合ったけどね、もう、駄目よね、もう、法律で。もう、
製凍庫に入れて、向うに入れて、しようがなしだった。それから、**fense** を
越して、越そうおもって、撃たれて死んだのもある。**Lordsburg**と
いう所は、暑いところですよ。もう、竜巻が来るでしょ、砂をね、
tornado かな?

YF: うん、**tornado**。

KO: あれは、すごいですよ。それからね、**camp** の端を、みな引っ張ってあるの、**rope** で。もう、暑い、暑い、寝られんの。ほかに、あの、風呂を浴びる水を撒いてね、**bed** の下に入って、寝るの。**Bed** の上には、寝られないのよ、もう焼けるのよ。それで、あそこへ、**three Months** ぐらい、もっと、おったかね。あそこに、おってから、こんど、**Santa Fe. Lordsburg**ではね、鈴蛇ちゅうの、ガラガラに鳴って、、、

YF: Yeah, yeah, rattlesnake...

KO: あれを、捕ってきてからね、焼いて食べるの。わしは、食べなかったがね。

YF: おいしそうですよ。

KO: それから、あの、**Lordsburg**に行って、**Lordsburg**-- 私は、初めてぐらいですが -- あそこは、**CCC [Civilian Conservation Corps]** の center, **Lordsburg**は。やあ、**Lordsburg**じゃない、**Santa Fe.**

YF: Oh, Santa Fe.

KO: あの、**CCC** の **camp** でね、わし等が、行った時には、**six** か **seven** ぐらい、**barrack** があったのよ。**Ten** ぐらいあったかね。大きな洗濯場があったですよ。洗濯を、あの **machine** もね、**CCC** の **camp** だからね。あれも、みな、((?)) で、古かったの。あそこへ、まあ、私らは、初めてぐらい行って、だんだん、だんだん、多きになってね、**3,000**、三千人おる。先生、行ったんじゃないですか？ お父さん、会いに。

YF: そう、そう。

KO: **Lordsburg**じゃない、**Santa Fe** へ。

YF: **Santa Fe.** そのときね、**Pistol Uyetake [植竹?]**という人に出て、、、

KO: ああ、そうですか？ 兵隊じゃない？

YF: **No, No,** あの、なにか、**office** に勤めていたらしい、通訳じゃないかな。あれも、二世、やあ、**house** のほうに、呼ばれて行ってね、、、

KO: じゃ、そこへ、勤めていた？

YF: いや、((?))

KO: **Mainland** の人？

YF: No, No, ハワイの。Pistol と言ったらね、その、何かの、怪我をしてね、この三つの指がないの。それで、小指が、こういう風になっているからね、pistol みたいに見えるでしょ。ああいう、nickname よ。

KO: Nickname が Pistol?

YF: ええ、Pistol.

KO: その人が、office へ?

YF: Yeah, office へ。

KO: Yeah, 一時はね、3,000 もいましたよ。もう、殆ど、開教師、皆、あそこへ入っていたね。それで、あそこには、独身であったの。

YF: Family は、なかったの?

KO: Only men. あの、family は、あの、Relocation Center.

YF: Crystal Center?

KO: Relocation Center.

YF: そう、そう、そう。

KO: Crystal の。Santa Fe は、only -- あそこは、あそこにまあ、わたしらも、三年半おったの。あそこへ、ずっと、一緒におったのは、、、

YF: 毎日、どのようなことを、やりましたか?

KO: Oh, 毎日、あの、私が、あの、いま言った、あの、laundry へ、仕事をしよったの。Bookkeeper -- 3,000 の、あの洗濯みな、あの laundry。大きな machine があって、あそこの、bookkeeper。で、one month に \$ 3.00 くれました。Three dollars は、何にもせんで、遊んでても。I think \$10.00 くらい、あつたかな、one month に。あれも、よかつたですよ。

YF: まあ、お賽銭よ。

KO: お賽銭。それから、まあ、いろんなことがあって、もう、私は、あの、baseball なんか、やりよったの。で、baseball の pitcher よ。

YF: それで、先生は、**golf** が上手、うまいんじゃないかね？

KO: 私は、あの、**lefty** ですよ。

YF: Oh, yeah.

KO: コーチが、つよいの。

YF: そう、そう、そう。That's why...

KO: まあ、いろんなことがあったね、**Santa Fe** では。そして、あの、口羽総長とね、重藤 [Shigefuji] 総長と、あの人が、講をしてね、**lecture** の 正信偈 [shoshinge] のね、講義を、で、私が、あの正信偈を読んでね。そして、皆集めて、まあ、**bookkeeper** やり、正信偈会というのを作って、それで、その、口羽総長と重藤総長、かわりがわり、講義するの、週に一遍。まあ、そういう熱心なね人もおったですよ。で、若いね、**Peru** のほうから来たね、若い、頭、クルクル坊主のね、まだ二十歳ぐらいのね、ああいう人もね、熱心に、あの、正信偈、毎日、聞いとった人もおったね。まあ、いろんなことがあったね、**Santa Fe** には。私は、あの、独身だからね、面白いぐらいにやっとたけれど、**family** のある人は、気の毒よね。**Family** と別れてね。お父さん達は、やっぱり、**family** と別れて、、、そう、もう、五十台だったかな。そして、まあ、病気して、、、

YF: Oh, 病気して、こんど、、、？

KO: 家へ帰って、病気になったんかな。Yeah, ちょっと、**stroke** が、、、

YF: じゃあ、あの、**parole** してから？

KO: Yeah, こちらへ、1945 に、、、

YF: ハワイ帰ってから？

KO: 帰ってから。まあ、、、そして、あの、それから、運命というものは、わからんですよね。まあ、私がね、ハワイに、来なかったら、恐らく、今頃、おらんですよね。日本で、もう、とうに、あの、先生しとるよね。

YF: そう、そう、多分ね。

KO: もう、ほとんど、皆、先生しとるの、私等の年配は。ちょうど、**Army** でしょ、日本のね、27だから。それが、まあ、無理して来て、最後の開教師と来て、そして、((?)) されたが、まあ、今まで、お蔭で、命があったわけですよね。いろんなことに、おったですよ。

YF: そうね。

KO: そして、あの **Santa Fe** でね、今、戸田いう、あの、**Olaa Hongwanji** の主任開教師、あの人がね、あの、**Santa Fe** で、**Japan** へ帰る、あの、交換船で帰る、あの、**application** を出して、私も、出したの、日本に帰るのに。で、あの人は、運が良うてね、来たのよ、あの、お前、帰れる言うて、船がある言うて。それで、あの、**Japan** へ帰ったのよ。それでね、帰る時にね、あの、もう威張ってね、俺は、日本に帰れるんだぞと、言うてね、もう、こっちは、悔しいけどね。ところが、帰るといふとね、日本に帰らないで、南洋のほうでなんか、、、

YF: **Singapore** か何処か、、、

KO: **Singapore?** **Yeah Singapore, Singapore** で、船が、あそこで、あがったんですよ、そこで、直ぐ召集令、**Japan** の **Army** に。そして、そこへ、戦死して、その人が。もし、交換船で帰っていなかったら、戦死していない。帰る時には、喜んでね、うらやましいように、、、ところが、そういう、人間の運命というものはね、わからんものよね。

YF: やあ、この前、あの、**Richard Sakakida** [榊田] いうのが、**American spy** だったよね。それで、**Philippines** のほう行って、まあ、いろいろ、その、日本のやってる情報を、まあ、家へ、こちらへ、送っておったらしいよね。だが、**Sakakida** さんの言うのに、**Philippines** でね、自分の **Hawaii** 中学校の先生に、ああいう人に出て、と言ってね、それで、もう、自分は、**spy** で、本当に申し訳ないという気持ちでね、あれ、いっぱいだったそうですよ。まあ、結局、ああいう、先生も、あそこで、先生してるよ。

KO: ああ、そうですか? そうですよ。

YF: 榊田も、捕虜になっただがね。

KO: まあ、**internee** になってですね、三年半、**full** 三年半ですよ、まあ、いろんなことは、耐えてきたですけどね、まあ、いろんなことが、あったけど、まあ、人間としてですね、まあ、交感があったわけですけどね、まあ、いろんな、それが、ひとつの、人生観というものがね、非常に、私の、一生にですね、いろんなことを考えさせられたよね、**Internee** や。

それで、まあ、**internee** が終わってから、帰って、いちばん初めは、、、あの、あの頃、あんたのお父さんが総長だったよね?

YF: うん、1947 でした、、、

KO: 1947 でしょ？ '46 に、私、帰ったんですよ。'46 に帰って、あの、Hilo に、あの、駐在になったの、Hilo Hongwanji の、、、

YF: じゃ、あの、柏 [Kashiwa] 先生だったの。

KO: はあ、柏先生？ 柏先生は短かかったでしょ？

YF: やあ、二年ぐらいだった、、、

KO: では、戦争直後は、柏先生、、、

YF: そう、そう、そう。

KO: あの時に、Hilo Betsuin の駐在になったの。

YF: 親父は、'48 から '52 まで。

KO: そして、あの、Hilo Betsuin の、その頃、Hilo Betsuin はね、あの、Army へ、没収されとったから、本堂は使えないの。あの前に、Kilauea Street というのが、あるでしょ？ あの、もうひとつ下へね、あの、バラックの Tei [?] の、あれは、何だったかね、なにか、工場かなにかあったの。それを、なおして、それを、片付け 布教所にしとったの、戦争中から。青木先生でね、青木先生は引っ張られてなかってね、ただ、Honouliuli まで来たね、Honouliuli へ。それから、また、帰って、Hilo Betsuin に、そして、あそこが、布教所だったの、彼 [?]布教所、それだけに。私、Hilo Betsuin の開教師だったの。それで、青木先生が、輪番で、もう1人、あの、神田 Doro いうて、あの人が、あの人と私が、三人で。あの頃ね、丁度、行った時に、四月に、大津波があったでしょ、tidal wave.

YF: Oh, '46?

KO: Yeah, tidal wave -- 私は、あの、ちょっと普通のね家のね、one room 借りて、あそこに、おったですよ。そして、あの、それから、Betsuin で、Betsuin の近くですよ、そして、お寺へ行きおったですよ。そしたら、津波の時に、あのあそこまで、水が来たんですよ、Betsuin の下、Halemau (?) のとこ迄、もう、魚がいっぱい来て。もう、津波ちゅうのは、初めて見た、あの海岸の、海側の家ね、大きな家なんかでも、one time、津波が家の上まで。あの時ね、Hilo Betsuin の理事だった、河野、河野いうのがおったでしょ、若い、あの、、、

YF: Hiraki [?] ...

KO: Hiraki? あれの father がね、院長だったの。あの人は、今の津波で、引っ張られて、亡くなったんですよ。まあ、あの時に、初めて、津波ちゅうのを見てね、たいへんなものと思ってね、、、

YF: あの時ね、that tsunami の時、私、丁度、日本から船に乗って帰る途中だったの。それで、海の上だから、全然、知らなかったの。

KO: そうでしょ? あれは、津波のいうのはね、海の沖へ出たら、全然関係ないの、ただ、海岸だけよね、こうなるから。それから、津波になったら、あの、gasoline なんか、みな沖へ、引っ張っていくでしょ、津波が来るいうたら。それから、あの、津波が済んで、あの時、大分、三百人位、Hilo で亡くなったの。家が、家が相当、、、それが済んで、私は、あの、1948 に Papaikou に、あの、転任し、梅原唱道 [Shodo] 先生が、何処か、Lihue かどっかへ。あの頃、貴方のお父さんが、総長だったよね。

YF: そう、'48.

KO: 私が、その時、あの、Papaikou に、1948 に。

YF: それで、先生、何時、結婚されたの?

KO: Oh, 結婚は 1946. あの、青木先生がね、仲人。

YF: その頃、奥さんは、何処におられたの?

Mrs. Ohara: あの Hilo Hongwanji のね、nursery school にお手伝いして
いました。(inaudible)

KO: あの頃は、ちょっと結婚する前は、Hakalau の、Oh, Hakalau じゃないか?

Mrs. Ohara: Hilo Hongwanji...

YF: Oh, I see.

KO: だから、1947 か、oh '46 の九月。そして、'47 に、あの、長女が生まれて、あの Jasmine が、あそこの、Aiea の、、、それから、'48 にあの Papaikou Hongwanji に転帰してね。で、Papaikou Hongwanji は、あの頃、お寺は、燃けたんですがね、戦争中に、あの、日本式の、大きなお寺が、あそこに、あの、真言宗の、あの布教所があったの。((?)) それに、引っ越して、あれは、貰って、Hongwanji にして、真言でした

がね、あそこに、おったの。で、あそこから、あそこに行った頃ね、Nash いう車を、持っていたの。

YF: Oh, Nash. 大きなの。

KO: ((?)) 車よね。買えんのよね、あの頃ね。Number を入れといて、Number 順に、車がはいつてくるの。それで、あれが来たのが、Nash いう車で。あれを、今持っていたら、大したもんだがね。

YF: Fancy car だったね。

KO: その、三十年も、ひとつお寺におるちゅうのは、あまりおらんね。

YF: だが、やはり、members なども、よく、まあ、知ることも出来るし、知ってもらふことも出来る、、、

KO: もう、殆どね、Papaikou の member はね、どんな家庭であって、どんな人であって、熱心であるか、まあ、殆ど全部知っています、三十年おったんで。でも、Papaikou はね、割合にね、熱心な人が、多かったの。Member はね、百五十人ぐらい、すくないけどね、その、すくない member が、殆ど、出てくるの。寺へよってはね、三百人おってもね、出るのは、百人ぐらいが、多いでしょ。でも、Papaikou は、わりに、熱心なとこだったね。まあ、前の 開教師は、全然 ((?)) 熱心だったからね。まあ、非常に、盛りやすいと思うね。でも、まあ、子供なんかの関係でね、まあ、三十年にも、なったんだけど。まあ、Hawaii 島、大体いうて、熱心な member、熱心な memberが多いですよ。

YF: 私の覚えている member といったら、まあ、沖本 [Okimoto] family や、森垣 [Morigaki] や、中野 [Nakano].

KO: あれは、森垣の親父さんは、熱心な。あれは、示談というのをやったの、示談というのを知っているでしょ？

YF: Yeah, yeah.

KO: 対 [tai]、対。対で、いろんな、告白 [kohoku] があるでしょ。あれは、示談というの。

YF: ええ。

KO: One ((?)) してね。

YF: One on one.

KO: 昔は、戦前はね、Kona が盛んだったの。Kona の coffee 畑で。Coffee 畑には、家があるでしょ？　そこでね、あの、coffee の忙しゅうない時、あの、not season でない時にね、あの、members はね、もう、寝ないで、一晩中、朝から、昼から、晩までね、あの、示談やるん。こぼき話ばかり、あの示談。あれは、有名ですよ、Kona の示談はね。あれは、やっぱり、まあ、飯田先生頃の時代から、始まっつつたん。それだから、止めない。

YF: それで、妙好人 [myokonin] の、、、

KO: 妙好人、あの前を、、、

YF: 佐々木さんなどね。

KO: 真似いうたら、いけんけど、あの、まあ、本当に、熱心なの。で、私もね、あの、青木輪番が、drive ようせんのですよ。で、私が、drive をしてね、連れて行きよったんですよ。それから、Kona からね、青木輪番を、呼ぶんですよ。あの頃、青木輪番は、説教が上手でね、日本式の説教などもね、それで、Hawaii 島では、大したもの、説教が上手でね。で、Kona から、members が示談にきてくれと、呼ぶんですよ、そして、私が、drive して行きよったの、あの、青木先生連れて。そこへ、行ったらね、三日、四日、寝んよ、寝ない、朝から晩まで、ずっと、晩も寝ない、徹夜ですよ。そんなに、熱心なね、人がおるんかなと、思ってね、まあ、びっくりしたね。

YF: 今の、その、松田 family などもね、、、

KO: やあ、松田も熱心な。ああ、これは、熱心な人が、多い。そういう、示談で、鍛えとるの。まあ、あれには、びっくりしたね。で、Papaikou でも、その、森垣いうのはね、あの親父さんなんか、熱心なの。それから、中津いうのもね。今、あそこの、やっぱり、Ron、あれの、お父さん。それから、Takemono Yuichi、あれが、熱心だね。まあ、熱心な人が、濃かったね。で、非常に説教をよく聴くね、あの人が、濃かった、そして、三十年もおって、焼けた寺を、建てて、まあ、先生には、しとられるが。

YF: それで、そのころも、やはり、あの、camp を説教で、ずっと廻ったわけよね？

KO: やあ、camp にも行った、十二箇所おったんですよ。いちばん上がね、Kaimauli というところが、あるんですよ。そのきび畑の中を、ずっと、山まで、山の裾にあるんで、Kaimauli。そこはね、あの、Sunday school も、

やるんですよ、一月に一遍。あの、camp 説教に行って、その、説教の前に、子供ら集めて、Sunday school をやるんですよ。それから、こんど、説教をやるんで、だから、だいぶん 晴れて、まあ、あの頃、十二ミリか、あの movies、あれを持って、行よったの。それから、帰りにね、あの、雨が、小雨が降ってね、きび畑の中でしょ、車が動かないように、なってね、泥の中に埋まって、そして、帰れんことも、あったんですよ。ずっと、きび畑の中で、歩いて帰るわけにも、いかんで。まあ、昔は、未だあの頃は、やっぱり、開教師は、そうとう、苦労したもんでね。まあ、布教というものにね、この、だいぶん、仕事しなくては、いけない。そして、給料は、小さいでしょ、すくないでしょ？ まあ、開教師は、宗教的な仕事だから、奉仕的に、やらなければいけない。こういう考え方が、あったんですよね。

YF: そう、そう。

KO: 神道のなかでも。だから、もう、甘んじて、その、駐在しなくちゃ、ならない。Income ということを考えては、もう、考えない。だからね、ある時は、もう、Papaikou のお寺を建てるのにも、借金して、食べるのもないというようなことも、あったんですよね。そのなかから、でもね、お寺を建てるいうたら、まあ、あの頃の、四百ドルいうたら、たいした大金でね、あれを、寄付してね、で、自分は、食べることが出来ない、family でもね、食べるものもないというような時があったね。ああいうのが、やっぱり、開教師は、甘んじて、犠牲的に、布教しなくては、ならない、いう、この、日本からのね、あの何かな、あの頃、未だ、あったんですよね。まあ、それは、もう、私らで、最後ぐらいだったね。その、戦前、私に来る前、もっと、ひどかったでしょうよね、あんたのお父さん頃。

YF: そうね。

KO: ひどかったでしょう。だから、まあ、一世、二世のうちにはね、娯楽というのは、なしね。Camp の、あのきび畑の中におってね、寺と、いうものが、ひとつの娯楽の場所であり、皆が集まって、この、社交的な場所でも、したがって、その、開教師というものが、一世の移民の、ひとつの、大きな、なによね、指導的な立場であったよね。でも、収入ということはですね、宗教（ (?) ）だから、相当、犠牲にならないと、そういう、考え方があったん。で、今頃は、もう、考えられないよね、そんなに。まあ、そういう時代は、非常に、開教師も、苦労したもんよね。

YF: そういうことは、覚えている。まあ、members がおるんですよね。その ministers が、ほんとうに、それで、今の ministers を見てね、どうして、

その、**ministers** は、そんなに欲張りをするかというようなことを言う。このまえ、あの、もう1人、私、**sumo** [?] 知っとんだんですがね、私も、お酒、嫌いほうじゃないだからね、ああいう、質問するわけよね。うして、**ministers** は、その、お酒が好き、お酒を飲むんかというようなことを、聞くわけよね。まあ、私の、説明は、やはり、**members** が、勧めるから、結局、**ministers** も、飲むようになるんだと言ったんですがね。まあ、そういうことも、あったんじゃないですか？

KO: そうよ、そうよ、そういうことは、昔はね。

YF: やあ、向うから勧めて、いやということは、言えないしね。

KO: 着くと、お酒を勧めるだからね、昔はね。

YF: そう、そう、そう。

KO: ああいう点は、あるかも知れんね。それだから、それが、やっぱり、この昔の、初代の日系人というものはね、相当、その、苦勞しているから、自分が、苦勞して、収入もすくない、そういうことを、考えているからね、開教師も、やっぱり、その、しなければいけないという、頭も、あるかも知れないですね。今は、もう、そういうことを、全然、考えてもおらんですよ。考えてあっても、つまらんから、今の若い人は。皆、日本に帰ってしまう。

YF: そう、そう。

KO: まあ、本当の布教というものはね、やっぱり、そこまで行かんと、開教師ではないよね。昔の、開教師という名前は、教えを開く使いだが、今頃は追教師ですよ。教えを開くじゃないよ。

YF: まあ、ある人は、閉教師というのよ。

KO: 閉教師さん。昔の、ほんとうの開教師が、それよね。犠牲的、報酬も犠牲にして、教えを、どんどん、広めて行くこと、これが、昔の、本当の開教師よ。

YF: そう、そう。

KO: 今、開教師の名前は、使わんほうがいい。追教師になっている。まあ、それが、時代の流れというものであってね。で、まあ、**Waipahu** に来て。

YF: それで、何時、Waipahu に来られた？

KO: Waipahu は '78. '48 から '78 丁度、三十年おって、Waipahu が '89 か、
'88 ちょっと。

YF: すると、まあ、四十一年の、開教師つとめたん、、、

KO: 四十七年、47 years.

YF: 長かったね。

KO: Enclose the internee. あれが、ちょっと ((?))、四年、五年ぐらい。

YF: それは、足しよったら、三十七年。

KO: 三十七年。あれも、長い。まあ、いちばん長いのは、Kiku 先生ぐらいかな。Kiku 先生は、Naalehu だけでも、四十年おったんですよ。

YF: そう、そう。長かったな。

KO: まあ、だから、Waipahu に来てから、まあ、だいたい、都会というもののお寺を知ったんですがね。

YF: やはり、Papaikou に比べると、大分違いましたか？

KO: やっぱり、あの、雰囲気が違うね。それで、member の考えも違うし。Papaikou は、田舎ではあるしね。田舎のお寺と、町のお寺は、まあ、島によるけどね、この Oahu 島は、やっぱり、違いますね。やっぱり、あの、Hawaii 島なんかが、いちばん、信仰心が深いんじゃないですか？

YF: そうですね。やあ、前から、、、

KO: そして、この、まあ、shiarai [?], これはね、土地柄によってね、この Oahu 島は、やっぱり、町であって、人間の考え方というものも、違う。寺にたいする考え方も違う。Business 的になっているの。

YF: そう、そう、そう。

KO: Business にね。田舎の寺はね、business よりか、社交的な場所であり、((?)) の場所であり、町じゃ、ほかの、いろんな、楽しむところが、なんぼでも、あるからね。だから、寺というものは、そう、あの、頭に

置いてはいないね。まあ、、、

YF: 大分、変わったようね。

KO: **Business** 的にね。その、経営というものも、**business** 的になって、この **Oahu** なんかも、そうだけど。まあ、でも、これからの、**Hongwanji** もね、相当、一生懸命にやらんと、だんだん、なくなるね。

YF: そうね。

KO: お寺も、だんだんなくなる。少なくなるね。まあ、いまでも、**Hawaii** 島でも、六人か七人ぐらいしか、おらんでしょ？ 昔は、十三人もおったがね。だんだん、開教師もいらんようになるよ。合併したらね。今、**Naalehu-Pahala** でも、((?)) ちょうどいいぐらいですよ。

YF: そう、そう。昔はね、昔は、まあ、御法儀などというような言葉も、しょっちゅう、使っておったんだがね、今頃は、ああいう言葉は、あんまり、聞かないよね。それで、やはり、、、

KO: そして、まあ、英語で言えるから、、、

YF: それで、**member** の考え方も、大分変わっていったるわけですよ。その、法を聞くというような目的があったんだが、今は、法を聞くというよりも、なにかやったら、良いという、、、

KO: なにか、事業を、、、

YF: そう、そう、そう。事業、、、

KO: **Bazaar** とか、、、

YF: 何か、意味のある、**in other words**, その、昔、だだ法を聞くというのはあまり意味がない、、、

KO: 説教を聞くということは、あまり、意味がない、、、

YF: 何かしないといかんという **member** の考え、、、

KO: なんか、形にあらわして、ものしなくては、いけない。

YF: そう、そういう、その希望に応じないと、いけないと思うがね、**ministers** は、、、

KO: それは、頭が変わって、今頃はね、member の mind がね、変わってきているからね。だから、こんどは、それに合うような、なんか方法を、考えなくてはいけないのよね。何か、ひとつの目に見える、つくって、それに、応じて、（ (?) ）とかね、そういう、機会を作るとか、なんかしなくちゃ、ただ説教だけでは、駄目よね。だんだん、お参りも少なくなってくるし。なんぼ、英語でも。そう、でしょ？

YF: そう、そう。

KO: 英語でしたら、どんどん、参って来ると、そうではない。英語でも、同じ、だんだん、少なくなってくる。だから、それに対してはね、考えなくちゃいけないですよ。

YF: そう。

KO: まあ、考えてもね、若い人の頭が、宗教というものに、感じがなくなったらね、どうもこうも、ならんよね、何も出来んよね。キリスト教でも、その、宗教全部でしょ？ また、若い人の考え方が、変わってきたら、宗教というものも（ (?) ）置かないようになったら、、、

YF: やあ、だが、その何かね、もっと conservative な、まあ、宗派などが、現れてくるでしょ？ やはり、その、人間には、そういう、まあ、希望がないというのではなくて、やはり、今、やっているのが、意味なさんという気持ちから、何か、ほかのものを、求めていってるわけよ。それで、まあ、創価学会や、ま、立正佼成会 にしても、真如苑にしてもね、また、キリスト教では、、、

KO: 新興宗教なんか、、、

YF: そう、そう。ああいう、その、conservative なところへ行くわけよね、Jehovah's Witness よ。

KO: ひとつはね、ひとつは、あの Hongwanji には、祈祷とかね、或いは、いろんな行 [gyo] ね、なんか、いろんなことを、言わないからね、それは、言えない -- 他力ということがあるね。自力というのは、（ (?) ）。そういう点なると、今頃、それがね、ひとつの、なにになるかね。あの新興宗教なんかはね、いろんなことをするとかね、或いは、何日間、一生懸命参ってきたら、どういうことがあるとかね。ひとつのなになが、あったかね。そういう点が、あるかもしれん、今の、考え方が。だが、Hongwanji は、その講習というのがない。目に見えない、あっても見えない。だから、、、

YF: そういう点、その Hongwanji の ministers も、もう少しやらないといかん
と思うだがね。

KO: これはね、全然、あの、hire する人、あの開教師は、あの、hire
しなくてもね、なんか、これは、ひとつの方便よね、方便いったら、
((?)) なんか、ひとつの、

YF: そう、そう、そう -- skillful means.

KO: Yeah, yeah. これを、ひとつの方便して、それをもって、それに、
近づけて、ああいう、方法も、考えなければいかん。まあ、頭から、
あの、志業しても、念仏を唱えても、駄目というようなことを、
言わないで、なんかね、この、自分のためになることがあるという
ことをね、なんか、方便にして、使ってやったらどうかと、思うがね。
あんなことを言うと、怒られるがね。

YF: なにか、方法があると、

KO: 他力 ((?)) 。が、あまりやっていくとね、もう、若い人は、相手に
せんようになるよね。

YF: そう。

KO: もう、若い人でも、今頃の、頭の回転というものはね、これだけ、
落としたり、これだけの報酬があると、ちゃんと感じるだからね。

YF: そう、そう。

KO: それを、やらなかったらね、なかなか、それは、上手くいかない。まあ、
これは、むずかしいことですね、Hongwanji としては。

YF: やあ、もう少し、合理的に、進めて行けば、いけないね。

KO: そう、そう、合理的にね。

YF: でも、または、その、例えば、心理学者やね、ああいうような、その
experts, 合理をしてね、まあ、手伝ってもらったらいと思うがね。

KO: そういう点は、先生なんか、一生長い、

YF: やあ、私も、年だから、

KO: 先生も、引退しても、そういう仕事をやってもらったら、Hongwanji のためになるね。

YF: できたら、いいんだがね。

KO: 英語のわかる人が。

YF: 大方、もう、時間になりましたね。何か、最後に、あの、言い残すことがございますか？

KO: 今、言ったこと、言い残すことは。

YF: Yeah, very good.

KO: まあ、あの、これは、日系人の、日系人協会の、、、

YF: 日本文化センター。

KO: Oh, 文化? Cultural?

YF: やあ、ほんとに、貴重な、その、思い出話を聞かせて頂いて、本当に、、、

KO: いいえ、ざっくばらんの話になって、どうかしら、まあ。

YF: やあ、どうも。Thank you very much.

(End of interview)